

2018年10月20日
日本介護クラフトユニオン（NCCU）
第20回定期大会

会 長 あ い さ つ

会長 久保 芳信

はじめに

日本介護クラフトユニオン第20回定期大会にご参集いただきました代議員、傍聴の皆さん、大変お疲れ様です。日頃は日本介護クラフトユニオンの諸活動にそれぞれの立場でご理解・ご協力をいただいておりますこと、感謝申し上げます。また、ご来賓の皆さまにおかれましては、ご多忙の中、私たちの定期大会にご臨席を賜り誠にありがとうございます。組織を代表して御礼申し上げます。

日本を取り巻く情勢は、アメリカ、中国、ロシアなどの保護主義や新興国での内紛など、平和に逆行する動きが台頭し、国際社会での調整が難しい状況にあります。また国内では安倍一強といわれる政治情勢で、生活弱者に対する政策が十分に検討されているとは思えません。2020年の東京五輪で世界にあらためて日本を知ってもらえば、人にやさしい国・日本をアピールしてもらいたいと思います。

第20回定期大会の冒頭にあたり、この1年間の活動に関わる成果と課題、本大会議案に関わる運動の方向性、ならびに私達を取り巻く直近の諸情勢について所感を述べさせていただきます。

自然災害被災地への対応

今年は予想を超える雪害や風水害、猛暑、地震、猛烈な台風などの自然災害が例年より多く発生しており、特に、今年7月に発生した岡山県・広島県・愛媛県を中心とした「平成30年豪雨」では多くの人命が奪われ、住宅の破損・浸水という甚大な被害をもたらしました。あらためて、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、被災されました方々に対してお見舞い申し上げますと共に、1日も早い復旧・復興が進み、普段の生活を取り戻されるようお祈りします。

また9月に入っても「台風21号・24号・25号」「北海道胆振東部地震」、さらに全国各地のゲリラ雷雨等で被害に遭われた方々もおられることと思います。立て続けに起きる自然災害は毎年増大・拡大しており、今や「想定外」では済まされない状況であります。私たちはこうした災害を教訓として、次なる災害に備える防災・減災対策、そして災害時の危機管理対策をさらに高める必要があります。

組織の拡大と強化

次に組織の拡大と強化について触れたいと思います。

昨年、第19回定期大会では、「組織拡大」を活動方針の最優先事項に位置づけ、組合員10万人を目標としました。今年度は5分会7,467名の中間の参加があり、7月31日現在79,179名の組織現勢となりました。関係者の努力に敬意を表し、感謝申し上げます。目標の10万名まで2万名余りで、引き続き組織化の努力は続けていかななくてはなりません。

組織拡大と共に大切なのは、組織の強化活動です。各総支部では、運営委員会で協議を重ね、ステップアップ研修会やイベントなどに工夫を凝らし充実した総支部活動となってきたと思います。また、「地域に根差した身近な日本介護クラフトユニオンとなるよう進めたい」という思いがようやく支部活動に繋がってきました。中でも、地域支援事業の充実を求められている市区町村ごとに、地方議員のお力を借りて介護現場を支える組合員の意見を議会で代弁していただいている総支部が増えてきています。今後も組合員の職場と生活基盤に最も近い支部を中心とした活動を進め、より一層に「身近な日本介護クラフトユニオン」となるよう邁進したいと考えていますので、総支部の役員・組合員の皆様のご協力をお願いいたします。

一方、分会役員の退職や事業所閉鎖により2分会の廃止がありました。また、ユニオンショップ協定未締結の分会では、新規に加入する組合員が増えなければ組織活動はジリ貧となり、消滅の方向に進んでしまいます。未加入者の加入促進を分会の最重要課題と位置付けて、組合説明会などを計画的に進めなければなりません。また、分会の立て直しや未加入者対策を進めるために、組織強化・教育に専属担当を置き、分会役員の指導・育成、労使関係の強化などのバラツキも出ないように組織を構築しなければなりません。

新たな取り組みとしては、全国分会役員セミナーや全国支部役員セミナーなどを通じて、分会や支部同士が全国規模で切磋琢磨して力を発揮できるよう、連帯感の醸成を図ることを本日の議案として提案します。

労働条件闘争

次に労働条件闘争について触れたいと思います。

日本介護クラフトユニオンでは、2009年から「介護従事者が希望と誇りを持って働くための賃金水準は、月給者も時給者も全産業平均を下回ってはならない」という理念に基づき、交渉を進めてきました。

2018労働条件交渉については、2月開催の第18回中央委員会で決定した要求内容に基づき労使交渉を進めてきました。しかし、月給制の介護従事者と全産業平均賃金との差額は約85,000円も開いています。また、介護人材不足は深刻度を増しており、有効求人倍率をみると、全産業平均の1.63倍に対し介護業種は5.0倍と、高い数字で推移しています。人材不足の要因は私たちの調査でも明らかで、不満の1番目に挙げられているのが賃金を初めとする労働条件の低さです。人材不足による介護保険制度の崩壊を招かないためには、介護従事者の賃金をはじめとする労働条件を引き上げることは急務であ

り、日本介護クラフトユニオンは引き続きこれを強力に推し進めなりません。

政策・調査活動

次に政策・調査活動について触れたいと思います。

介護保険制度は発足から19年目で、今年4月からは介護保険法改正と介護報酬改定が実施されました。中でも医療と介護の連携強化では、退院・退所時にケアマネジャーが医療機関からの情報収集する際の必要な事項を整理することや、平時から医療機関との連携を促進することなどが盛り込まれ、より適切でスムーズな介護サービスにつながるものと期待します。居宅介護支援事業所の管理者要件が主任ケアマネジャーに限定されることについては、経過措置期間があるものの、事業所が継続できないための統廃合が進むことを懸念します。また、生活援助を中心とする担い手の拡大を目的とした「新研修」が始まりますが、研修時間が短いことから現場で問題が発生することが予想されます。改定された内容については検証を進めて、必要があれば改善に向けた取り組みを進めなければなりません。

調査活動では「就業意識実態調査」「賃金実態調査」をはじめ、各種調査を実施してきました。中でも「ご利用者・ご家族からのハラスメントに関するアンケート」では、業務中に何らかのハラスメントを受けたことが「ある」との回答が74.2%にのぼりました。記述内容をみると「犯罪ではないか」と思える状況で、現場を支えているみなさんが毎日大変なご苦労されているのが覗える内容でした。NCCUはこの調査結果をすぐにマスコミに公表し、介護現場で起きているハラスメントの実態をテレビ、ラジオ、一般紙、業界紙・誌、WEBニュースなどなど多くのメディアを通じて報道していただきました。またさらに、厚生労働大臣宛に、ハラスメント防止のための6項目の対策を求める「要請書」を川合孝典参議院議員のお力添えで提出し、その結果、「実態把握を行った上でハラスメント防止についての検討会を立ち上げ、年度内に事業者向け対応マニュアルを作成する」との対応を引き出しました。

さらに、先日、厚生労働省より「介護現場におけるハラスメントに関する調査研究」という会議体を設けるとのお知らせをいただき、委員構成についてもお話がありました、もちろん労働枠で日本介護クラフトユニオンが入ることを直近の動きとしてご報告します。

国の対応だけでハラスメントをゼロにすることは困難であると承知していますが、このような対策が、介護現場におけるハラスメントの防止につながることを強く願います。

介護業界の労働環境改善を進める労使の会(略称:労使の会)について

次に「介護業界の労働環境改善を進める労使の会」に触れたいと思います。

3年目の取り組みとなる「労使の会」では、これまでに、日本介護クラフトユニオンと労使関係のある法人との間で「ハラスメントの防止に関する集団協定」「ご利用者虐待防止に関する集団協定」を締結し、労使双方の代表による記者報告会を行いました。

そして2019年度は、「ご利用者・ご家族からのハラスメントに関するアンケート」の

結果を労使の会で取り組むべき課題と受けとめ、「ご利用者・ご家族からのハラスメント防止に関する集団協定」の締結に向けて取り組むこととしました。9月22日の第4回労使の会には初めてマスコミ取材が入り、テレビ放送や全国紙などで報道されました。今回の取り組みは、日本介護クラフトユニオンと労使関係のある法人との間だけにとどまらず、会のネーミングが示すように「介護業界の労働環境改善」に資することを目指したいと思います。

政治活動

次に政治活動について触れます。

介護従事者の労働環境に直結する介護保険制度をはじめ、日々の暮らしや人生設計に関わる社会保障制度や税制は、政治と大きく結びついています。

今年9月開催のUAゼンセン第7回定期大会では、2019年7月施行予定の第25回参議院議員選挙に向け『田村まみ』氏の必勝を決議しました。川合孝典参議院議員と同様に、日本介護クラフトユニオンの代弁者として、わたしたちの代表「田村まみ」氏を国会に送り出さなければなりません。4月には統一自治体選挙も行われます。組合員の皆さんの理解と協力をお願いいたします。

結びに

最後になりますが、日本介護クラフトユニオンが行う重要な活動は、先に述べた以外にも、生活応援・共済事業活動、広報、教育・男女共同参画、社会貢献活動などたくさんあります。また、社会環境の変化に伴い、外国人組合員のサポートや、性的少数者(LGBT等)の為の対応も検討しなければならないと思います。それらの取り組み内容については、本日の報告確認と議案で提案させていただきます。

さて、本大会スローガンは、「NCCU運動でつくろう、日本の介護『夢・希望・未来』」です。組合員全員が力を合わせて職業別労働組合の活動を進め、日本のより良い介護を作って行こうではありませんか！

2019年度もNCCU運動を着実に前進してまいりたいと思います。今後も、組合員の皆さんにはNCCU運動へのご理解、ご協力をお願いして、私からの挨拶とします

それでは、本日長時間となりますが、宜しく願いいたします。

組合員の幸せのために共に頑張りましょう！

以上